

歴史を創り、次代へ発展

本紙はきょう、創刊75年を迎えた。人や地域の歴史は、困難を乗り越え、発展し築かれてきた。節目を迎えるそれぞれに、「地域」「人」をテーマに、その歴史と次代への発展について話を聞いた。

奈良新聞 創刊75周年 生駒市 市制50周年 上武建設 設立50周年

生駒市長
小紫 雅史



昭和46年11月1日に始まり、今年で市制50周年を迎えます。当市は緑豊かな自然環境に恵まれ、大都市へのアクセスも良好で、関西を代表する住宅都市として発展してきました。その発展の核をなすのは、鉄道網と道路網の利便性にあります。当市の発展を長く支えてきた近鉄奈良線に加え、平成18年の近鉄けいはんな線開業、同21年には近鉄奈良線と阪神なんば線の直通運転も始まりました。道路網では、同8年に悲願であった第二阪奈道路のトンネル開通により、大阪、その先の兵庫、和歌山などへのアクセスが大きく向上しました。

▼関西を代表する住宅都市へ
社会・教育施設の整備も急ピッチで進みました。小中学校、幼稚園、保育園をはじめ図書館、コミュニティ

多様な施策で市民に愛されるまちづくり



大阪市内と奈良市内を最短で結ぶ第二阪奈道路の開通で利便性は大きく向上した

▼社会資本整備に支えられ発展
社会資本整備に尽力され、この50年を支えてくれた先人、地域の皆様のおかげがあり、今日の発展に至りました。
▼市民 事業経営者へ厚い支援
コロナ禍における市独自の支援策では、水道基本料金の2か月無料、妊婦1人5万円の特給を実施。各店舗のサービスを提供者が先払い、事業継続を応援する「さきめいごま」は、約1.1億円の経済効果を生んでいます。ほかにも感染患者の搬送専用隊、ふるさとの会、子育て支援センター、市民の割合（定住意向率）88.9%と全国トップレベルを誇ります。引き続き、学研高山地区第二工区の一部研究施設を含む工業団地やニュータウンの再生、駅周辺地域の活性化や再開発など、緑地を残しつつ必要な場や空間づくりの整備を進め、市民に愛されるまちづくりを推進してまいります。
▼市民に愛されるまちづくり
今後は、コロナ対策を十分にしながら、地域コミュニティを再構築します。ICTの活用、テレワークで自宅にいる現世代など新しいメンバーや活動手法も組み入れ、また事業者、奈良先端科学技術大学院大学などの各研究機関とも連携を深めながらまちづくりを「超回復」していきます。当市は、住み続けたい市民の割合（定住意向率）88.9%と全国トップレベルを誇ります。引き続き、学研高山地区第二工区の一部研究施設を含む工業団地やニュータウンの再生、駅周辺地域の活性化や再開発など、緑地を残しつつ必要な場や空間づくりの整備を進め、市民に愛されるまちづくりを推進してまいります。
▼地域とともに発展
苦難の時代から再建へ向け、当社は発行部数の増加、「ならリビング」の創刊、大仏マラソン大会の開催など多彩な企画、事業で市民とつながり、経営基盤を固めてきました。わかさ国体、なら・シルクロード

地域に密着した良質な報道を

奈良新聞社
代表取締役社長
田中 篤則



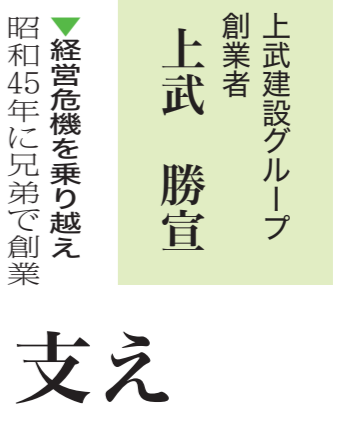
▼新しい新聞を目指し創刊
戦後間もない昭和21年10月26日、「自由な言論」

「社会正義」「市民」ともに「理念のもと新しい新聞を目指し、創業者・今西大司は「奈良新聞」の前身である「大和タイムス」を創刊しました。正確、機敏な報道が評価され、市民の信用を得ることができました。一方で創刊以来、社屋の全焼や新しい資材の導入など、資金面では多くの苦難を強いられました。「奈良新聞」として地域社会の

発展のために優れた地方紙になる」との信念を持ち、今日まで休刊せずに発行を継続できたのは、読者、地域の皆様のご支援のお陰と大変有り難く、感謝しております。
▼地域とともに発展
苦難の時代から再建へ向け、当社は発行部数の増加、「ならリビング」の創刊、大仏マラソン大会の開催など多彩な企画、事業で市民とつながり、経営基盤を固めてきました。わかさ国体、なら・シルクロード

博では県内が活気づき、当社も奈良の発展とともに成長。今後は地域に根ざり、個性と地方の薫りに溢れた紙面づくりに取り組む、県紙としての地歩を築きます。
▼報道機関としての使命
近年では、インターネットやソーシャルメディアの普及、紙媒体は速報性では優位に立っていますが、販売部数が減少し、今後の見通しが極めて厳しいことが予測されます。一方で、報道機関としては依然高い信頼度を保っていることから、私たちが取り組んでまいりました。

上武建設グループ
創業者
上武 勝宣



▼経営危機を乗り越え
昭和45年に兄弟で創業し、同47年に設立しました。当初は、オイルショックで重機の燃料も入手できず、経営危機に陥りました。その頃は、一睡もせず死にものぐるいで資金繰りや得意先への営業に駆け回っていました。この困難を乗り越えられたのは、資金面を支援してくれたのは、友人、田畑を担保に取引を預けてくれた父、早朝から夜遅くまで仕事に精励してくれた社員などお客様や地域の皆様の支えのおかげであり、身を持って信頼関係の有り難さと大切さを実感しました。

初心と感謝忘れず、地域を支え



今春、上武建設に入社した新入社員6名と上武会長（中央）、上武会長の経営方針のもと、同社、そして地域を担う人材を育成する

▼確かな経営基盤を築く
その後、白浜のアドベンチャーワールドやゴルフ場、生駒トンネル、近鉄不動産の造成、UR、第二阪奈道路、奈良先端科学技術大学院大学、近畿日本鉄道、ネクスコ西日本や阪神高速などの工事に下請けと

この75年を振り返り、当社では紙に加え、デジタル媒体を主力とする「奈良新聞DX」を新たに始動してまいります。媒体の特色を活かし、デジタルではスピード感と記事の深度を重視し、紙では県内を網羅しつつより洗練した情報を発信してまいります。
▼感謝を胸に地元、関西を支える
当社は、関西に重点を置き、得意先の要望に対し素早い決断、対応ができることを強みと考え、平成7年に私たち創業者兄弟の出身地である生駒市に新社屋を竣工しました。同15年には事業強化をはかり、同市に重機工事を主とする事業を、大阪には重機レンタル



大和タイムスから奈良新聞へ、県民とともに歩んだ75年

～地球にやさしく 未来につながる土台造り～

お客様、地域の皆様のおかげで
令和4年4月1日で設立50周年を迎えます。



創業以来培った技術力、環境への配慮
安全性・品質・生産性向上を
DXによって更に進化し続けます

